

一般質問 議:議員/理:理事者

- 農薬の対応策について
- オーガニック給食について

その他の質問

- ・予防医学の推進と意識の醸成について
- ・市有林としての山地集約化について



李 江嵐議員



議 農薬による健康被害は多岐にわたる上、環境に対する悪影響も甚大であるという研究結果がある。

①農薬に依存しない農法を支援するか。

②水質検査の結果を定期的に開示する仕組みを導入する考えはあるか。

理 ①市では、環境に配慮した農業の取組を支援している。令和6年度は8団体15名の農業者が125ヘクタールの圃場で有機栽培等に取り組み、交付金339万円を交付した。

②国の水質基準に定められた項目についての検査結果は、既に市ホームページで公表を行っている。農薬類は国が定める水質基準ではなく、水質管理上留意すべき項目の「水質管理目標設定項目」であるため、これまでは結果の公表はしていなかったが、令和7年度より市ホームページで公表するようにする。

議 健全な学習においてもアレルギーや免疫力の向上においても給食の重要性は極めて高い。

①小中学校で段階的にオーガニック食材の割合を増やす計画はあるか。

②学校教育の中で食育の機会を増やす方針を強く打ち出していただけないか。

理 ①市では、昨年11月より市内農家や農事組合法人から直接お米を買い上げ、学校給食へ提供している。今後、有機栽培米や特別栽培米のスポット提供も検討中である。野菜についても、若手農業者団体と協議し、一部の学校で地元産野菜の提供を開始した。現時点でオーガニック食材の割合を増やす計画や補助制度の検討はないが、研究していく。

②食育は中学校の家庭科の授業で実施しており、食品添加物や農薬の知識等について学習している。地場野菜を活用した給食の機会などを捉え、学校栄養士による食育活動なども積極的に実施していきたい。

一般質問 議:議員/理:理事者

- 中学校建設工事における勝山市の負担について

その他の質問

- ・令和7年度当初予算について



浦上雄次議員



議 令和6年度2月10日の臨時会にて中学校再編施設整備事業費の増額2億3,427万円の補正予算が可決された。

今回の補正予算増額はなぜ必要だったのか。どういう財源を活用したのか。市の負担は増えたのか。

またバス通学について、バスの台数不足や運転手不足の課題解決に向けて市はどのような財源を使っていくのか。

理 中学校校舎建設工事は入札が2回中止となった。主な理由は、全国的な技術者や作業員の不足、労務費や資材価格の高騰により、予定価格を超過したためである。また、公共工事の単価と実際の市場価格にタイムラグが生じている状況も想定される。こうした経済社会情勢を踏まえ、校舎建設工事の3回目入札に向けて価格設定の見直しが必要と判断し、増額をお願いしたものである。

財源については、文部科学省の公立学校施設整備国庫負担金を活用している。また、ジオアリーナ敷地内の地下横断歩道部分を除く全ての関連建設工事を都市構造再編集中支援事業に含めることで、国土交通省の社会資本整備総合交付金の補助対象とすることが認められている。市債についても、過疎対策事業債の公共施設マネジメント特別分として満額の配当を受けることができた。これらの国の負担金・補助金や市債の組み替えにより、令和6年度当初予算と比べ、市の負担額を約8億円軽減させることができている。

バス通学については、バスの台数や運転手不足への課題解決に向けた財源の活用に関して、運行体系の構築と合わせて現在検討中だが、財源の一つとして文部科学省の補助事業である、へき地児童生徒援助費等補助金の活用を考えている。